

《履修上の留意事項》 演習への積極的な参加と自らの行動の振り返りに重点を置くため、評価基準でリフレクションシートの配点が高い。
欠席回は配点されないため、欠席しないように留意すること。

《担当者名》 本家寿洋（リハ）honke@hoku-iryo-u.ac.jp ○巻康弘（福）maki@hoku-iryo-u.ac.jp 橋本菊次郎（福） 近藤尚也（福） 鈴木和（福） 宮地普子（看） 竹生礼子（看） 内ヶ島伸也（看） 石角鈴華（看） 吉田晋（リハ） 田村至（リハ） 武田涼子（リハ） 澤田篤史（リハ） 佐藤一成（リハ） 鎌田樹寛（リハ） 坂上哲可（リハ） 前田秀彦（リハ） 大須田祐亮（リハ） 飯泉智子（リハ） 若松千裕（リハ）（科目主担当、○学科主担当）

【概要】

医療・福祉領域では、患者・利用者や家族等との多職種による有機的な連携と協業は欠かせない時代となっている。

本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際について、ソーシャルワーク、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の専門的な立場から考察し、他の専門職の専門性を相互理解するとともに多職種チームで果たす役割や機能について学ぶ。

また、多職種連携演習では、模擬事例をもとに、学部学科をこえたカンファレンス(グループワーク)で、各自がファシリテーション力、コミュニケーション力、コンフリクトマネジメント力を発揮し、ふりかえる(リフレクション)ことで、多職種連携に必要な知識・技術・態度を身につける。

【学修目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを内省し、考えや価値観を再構築できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------|-----------------|---|----------------------------------|
| 1 } | オリエンテーション | 授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。 | 全担当教員 |
| 2 | | | |
| 3 | 多職種連携の必要性 | 多職種連携が求められる背景とその重要性について理解する。 | オンデンド |
| 4 | 多職種連携に関わる各職種の役割 | 病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ | オンデンド |
| 5 | 多職種連携に必要な技術1 | カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ | オンデンド |
| 6 | 多職種連携に必要な技術2 | 多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法について学ぶ。 | オンデンド |
| 7 | 多職種連携に必要な技術3 | 保健、医療、福祉の共通言語であるICFにしたがって情報を整理する方法について学ぶ。 | オンデンド |
| 8 } | 多職種連携演習 | 授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ | 全担当教員 |
| 9 | | | |
| 10 } | 多職種連携演習 | 各職種の視点で課題を整理し、多職種に伝える方法について、現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。 | 全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、下倉賢士 |
| 11 | | | |
| 12 } | 多職種連携演習 | 各職種から抽出された課題を共有し、チームで目標を統一するプロセスについて、現職の専門職を交えた演 | 全担当教員 特別講師：星野由利子、 |
| | | | |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|---------|---|----------------------------------|
| 13 | | 習を通して学ぶ。 | 上田学、下倉賢士 |
| 14) 15 | 多職種連携演習 | チームでまとめた課題を解決し、目標を達成するために、それぞれの職種が担う役割について整理し、介入方法を立案するプロセスについて現職の専門職を交え演習を通して学ぶ。 | 全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、下倉賢士 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト50%、演習後のリフレクションシート50%

【教科書】

篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

【参考書】

埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年

北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

【備考】

1. オンデマンド授業は5月末までに5回分を視聴し、視聴後に小テストを必ず受けること。
2. 演習 ~ のグループワークは、限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学修の準備】

1. オンデマンド講義や演習の予習は、事前に配布される資料を読むことや、関連する内容の教科書を読んだうえで参加すること（2時間）。
2. オンデマンド講義後の復習は、数回オンデマンドを視聴して内容を説明できるようにする。また、演習の復習は実施した内容をもとに何を学んだのかを説明できるようにする（2時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4: 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP2: 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

【実務経験】

巻 康弘 : 社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

橋本菊次郎 : 社会福祉士、精神保健福祉士

近藤尚也 : 社会福祉士

鈴木 和 : 精神保健福祉士

宮地普子 : 看護師

竹生礼子 : 訪問看護師、保健師、介護支援専門員

内ヶ島伸也 : 看護師

石角鈴華 : 看護師

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、精神保健福祉士、看護師等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。